



主体性を育む授業とは (PBL授業の重要性)

日本学術振興会
安西祐一郎

私立大学情報教育協会FDのための情報技術研究講習会
基調講演 2014.2.26 大阪経済大学 大阪

- 他者に頼った高度経済成功時代の終わり、18歳人口の減少
- 大学入試の形骸化
- 高校教育の目標喪失
- 高校学力の2極化＝大学学力の2極化
- 学力はあっても・・・学力がない・・・
- 世界潮流の激変
- 「主体性をもって、答えのない問題に答えを見出していく」力が重要。
- 高校教育、高大接続、大学教育の3者同時改革。
- 「主体性」を身につけられる教育の方法とは？

©Yuichiro Anzai

2

なぜ「主体性」なのかー世界の変化と人材育成ー

- ・ コミュニケーションのスピードが高まる。
- ・ グローバル社会への個人のコミットメントが強まる。
- ・ 個人がメディアに直接参加する機会が増える。
- ・ データベースのサイズと多様性が高まり、国境をこえて地球規模で共有される知識の量が拡大する。
- ・ 自ら考え、自ら行動し、背景の違う人間と協力できる、チーム力を持った人材が重要になる。
- ・ お互いを理解し、世界に存在する諸問題を発見・解決するための、合理的・倫理的・開放的・臨機応変的コミュニケーションスキルが重要になる。
- ・ 政治、経済、外交、社会システム、科学技術政策などが多様で複雑になり、それらの利害を深い思慮と戦略を持って調整する能力が重要になる。
- ・ 他者を幸福にできる仕事を自分で得る力が重要になる。
- ・ 学び続けることのできる力が重要になる。
- ・ 専門知識の基礎を実用に耐えるように叩き込むことが重要になる。
- ・ 「主体性」を育む学習環境が必要になる。

©Yuichiro Anzai

3

・ グローバル社会とは？

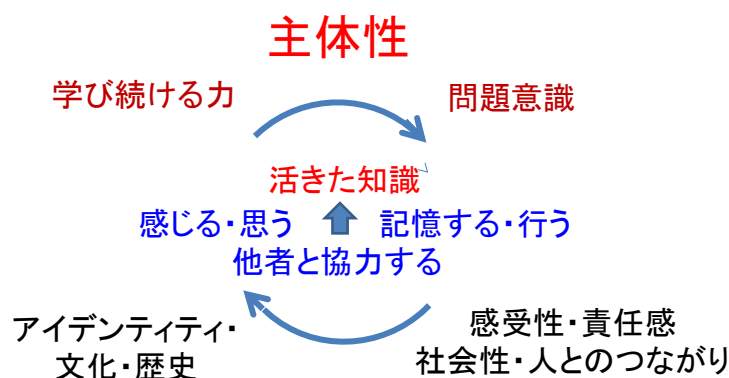
多様な人、モノ、資金、情報が国境を超えて容易かつ迅速に行き交い、国内外にかかわらずその影響のもとで人間の活動が行われる社会

- ・ 一様 ⇒ 多様
- ・ 横並び ⇒ いろいろ
- ・ 一直線 ⇒ 複線
- ・ ピラミッド ⇒ ハケ岳
- ・ ムラ社会 ⇒ マチ社会
- ・ 自分をころす ⇒ 自分を活かす
- ・ 他者を受け入れない ⇒ 他者ととともに生きる
- ・ 少ない機会 ⇒ 機会の拡大

©Yuichiro Anzai

4

これからの時代に必要な力 「主体性」をもって答えのない問題に答えを見出していく力



*ここでの「知識」とは、「さまざまなかたちをとって現われてくる状況の中に問題を見つけ、理解し、解き、さらにその行いを通して自分とまわりの世界とのかかわりを持ってゆくための、自分の頼りになる根拠」のこと（『問題解決の心理学』中公新書, 1985, p.201参照）

©Yuichiro Anzai

22

主体性 (self-agency) と PBL (Problem-Based Learning)

1. 主体性とは、自分の目標を自分で見だし、実践する力（≠一人よがり、≠主張する力、≠人の意見に従わない力）
2. 自分の目標をもっている人の心は、その目標が達成されやすいようにはたらく。（『問題解決の心理学』中公新書, 1985）
3. 主体性は、人の心を感じる力、想像力、臨機応変力、並行処理力、人間としての一貫性をもたらす。
4. 主体性は、学び続ける力、内省する力、創造的に思考し実践する力をもたらす。
5. 主体性は、答えのない問題に挑戦する力をもたらす。
6. 主体性は、チームワーク力をもたらす。
7. 主体性が身につくカリキュラムはあり得るか？
8. 主体性涵養のための
 - (a) PBLは課題解決型学習ではない。
 - (b) PBLは教育のためのテクニックではない。
 - (c) PBLでは教え込まないこと、教育者だけで閉じないことが重要。
 - (d) PBLの柱としてのチームワークはグループ学習ではない。
9. 情報技術は主体性の涵養に役立つか？



6

終末期を迎えた戦後日本の大学

(IDE大学協会『IDE-現代の教育』Vol.540, 2012年5月号巻頭言より)

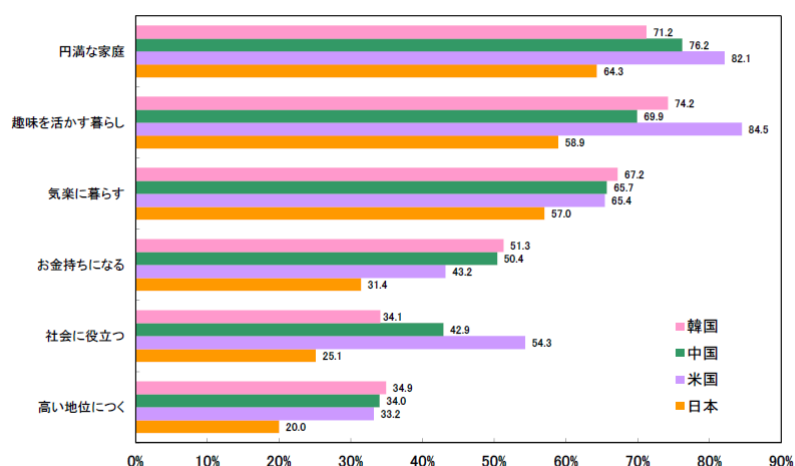
- 経済成長→東西冷戦構造の崩壊→多極化・グローバル化に至る世界の変容に対応できたか。
- 知識の創造と流通が国境を超える時代への変化をリードできたか。
- 地域を牽引する真のリーダーになれたか。
- 若年人口減少を克服するイノベーティブな生産性の向上に対応できたか。
- 若い世代のこれからの人生に必要な教養と知識とスキルを与えられたか。
- 教育方法と教育内容の転換は間に合ったのか。
- 目標を持たず、主体的に学ぶ意欲と力のない学生*を数多く産み出したのではないか。(*そうだとすると学生の責任ではなく教員の責任。)

©Yuichiro Anzai

7

高校生の将来目標

これからどんな目標を持って生きたいか



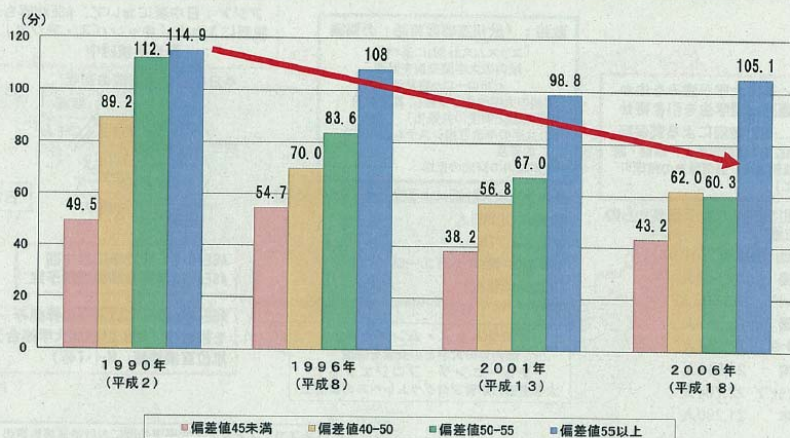
(出典) (財)一ツ橋文芸教育振興会、(財)日本青少年研究所「高校生の生活意識と留学に関する調査報告書(2012年4月)」

©Yuichiro Anzai

8

高校生の学校外における平日の学習時間の推移

○ ボリュームゾーンである中間層の勉強時間が大きく減少している。



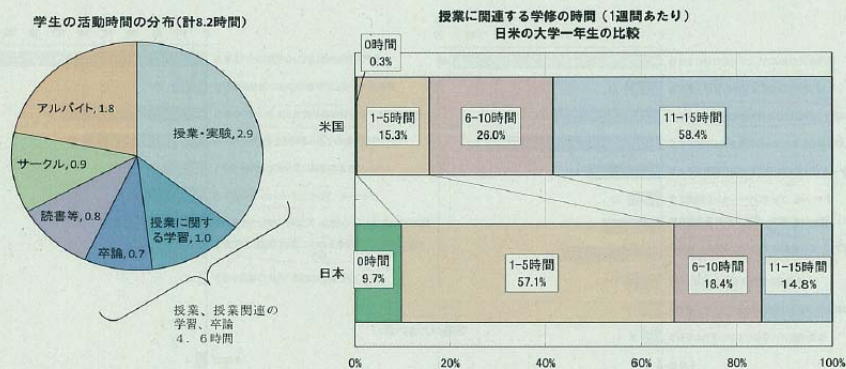
(注) 学習時間には、学習塾や予備校、家庭教師との学習時間を含む
 【調査概要】 高校2年生 (普通科) 4464人を対象に、全国4地域 (東京・東北・四国・九州地方の都市部と郡部) で実施。
 (出典) Benesse教育研究開発センター「第4回学習基本調査」

©Yuichiro Anzai

9

学生の学修時間の現状

我が国の学生の学修時間 (授業、授業関連の学習、卒論) はその約半日の一日4.6時間とのデータもある。



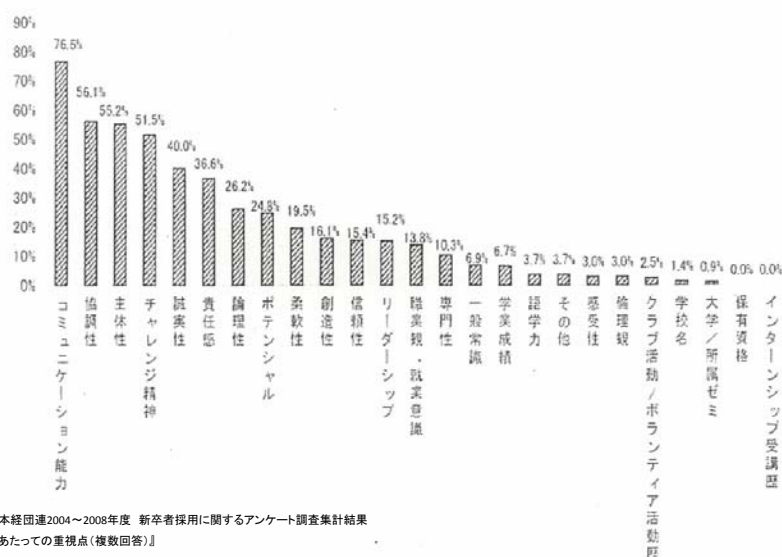
出典: 東京大学 大学経営政策研究センター (CRUMP) 『全国大学生調査』2006-8年、サンプル数44,905人、<http://um.p.p.u-tokyo.ac.jp/crump/>
 NSSE (The National Survey of Student Engagement)

©Yuichiro Anzai

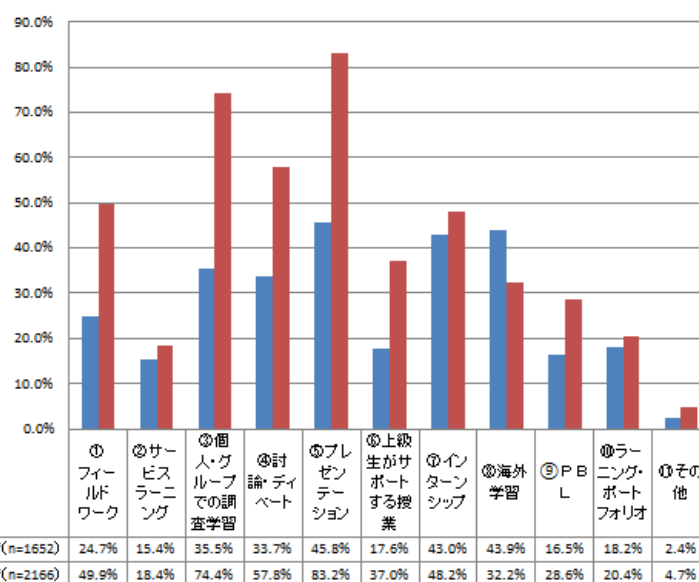
10

経済界の求める大卒の能力

【2008 年度】



「主体的な学修」のために大学で行われていること

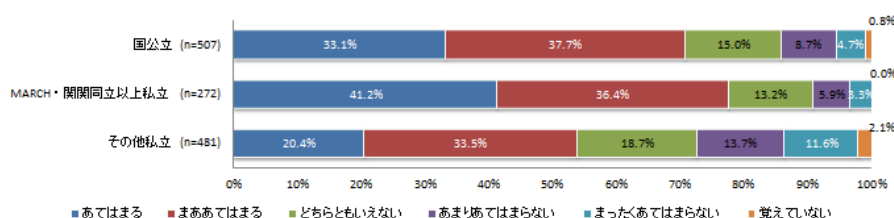


出典：日本高等教育開発協会・ベネッセ教育研究開発センター共同調査
「大学生の主体的な学習を促すカリキュラムに関する調査(2013)」

学修方法・時間・場所などの主体的な工夫

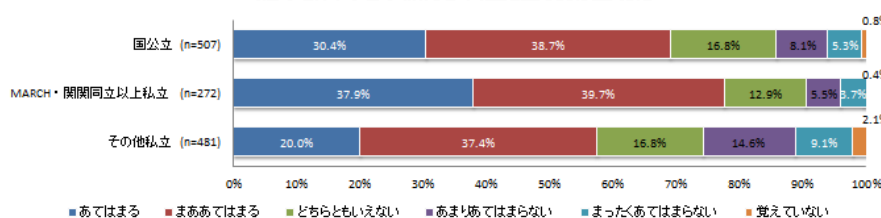
自ら主体的に、学習方法を工夫してみたことがあるか

成績をあげるために、自分なりの勉強方法を工夫した



自分で学習する時間や場所を工夫してみたことがあるか

時間の確保や学習の場所など環境面を整えるよう工夫した



出典：『社会で必要な能力と高校・大学時代の経験に関する調査』2010
ベネッセ教育研究開発センター

教育再生実行会議の提言

- I. 第一次提言(2013.2.26)「いじめの問題等への対応について」
- II. 第二次提言(2013.4.15)「教育委員会制度等の在り方について」
- III. 第三次提言(2013.5.28)「これからの大学教育等の在り方について」
- IV. 第四次提言(2013.10.31)「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について」
- V. 第五次提言(現在議論中)学制改革、幼児教育、高校無償化など

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/teigen.html>

…本日、これらの改革を通じて、「記憶力中心の受け身の学力」にとどまらず、「課題を発見し探究していく力」など、主体的に学
ぶ力を育て、積極的に評価していくべきであるとのご提言をいただきました。…

(安倍総理 2013.10.31 教育再生実行会議第四次提言を受けて)

http://www.kantei.go.jp/jp/96_abe/actions/201310/31kyouikusaisei.html

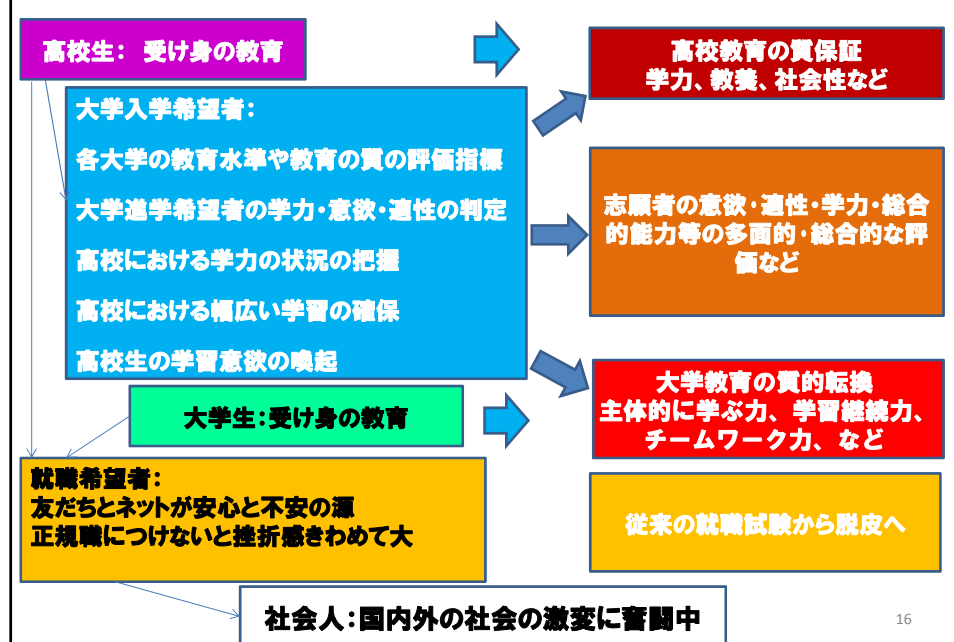
教育の振興と課題

- 第2期教育振興基本計画(2013～2017) 2013.6.14閣議決定
http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/06/14/1336379_02_1.pdf
 今正に我が国に求められているもの、
 それは、「自立・協働・創造に向けた一人一人の主体的な学び」である。
- グローバル人材の育成
- 学びのセーフティネットと安全基盤の構築
- 高等学校教育の新たな方策: 高校教育の質保証
- 高大接続の新しいあり方と大学入学者選抜方法改革
- 大学教育改革の実行: 受動的教育から主体的学修への大学教育の質的転換
- 教員の資質能力向上の方策
- 教育への財政支援
- その他

©Yuichiro Anzai

15

高校教育, 高大接続, 大学教育, 社会の新しい関係



16

実践（その1） 大学1年生が「主体性」を身につける授業

- 「社会」で活躍できる人材を大学で育成するにはどうすればよいか？
⇒ **社会性**に満ちた教育の場をつくる。
- 学生自身が「主体的に」学び成長する機会を大学に
つくることができるか？
⇒ 学生が**主体性**を身につけられる教育の場をつくる。
- このような教育の場を、複数企業・複数大学の産学
協同で、大学一年生から提供し、実践する。
⇒ **Future Skills Project研究会**

©Yuichiro Anzai

17

Future Skills Project (FSP) 研究会について

1. 日本の大学生に最も必要な、最も基本的な力とは何か？ ⇒ 主体性 ⇒ 主体性とは何か？ ⇒ どうすれば身につけられるのか？
2. 複数の企業と複数の大学(6企業5大学)のメンバーで実践。
3. 2010年7月FSP研究会発足、チームワークで足かけ4年。
4. 複数企業、単位取得を認める授業、大学1年生向け。
5. 2013年度より新たにいくつかの企業・大学が実践に参加。
6. 1学期間に2企業、1企業概ね7週。少人数のチーム。答えのない問題を企業が提示。学生の本気が試されるトレーニング。
7. 2011年11月10日(木)第1回シンポジウム(日経ホール;『VIEW21』大学版2012年特別号参照)、2012年12月14日(金)第2回シンポジウム開催(明大アカデミーホール; 同2013年特別号参照)、2013年11月28日(木)14:00~17:30 第3回シンポジウム開催(明大アカデミーホール; 配布資料参照)
8. 2014年度より活動をさらに拡大の予定。

©Yuichiro Anzai

18

「社会で活躍できる人材」を大学で育成するにはどうすればよい？
学生自身が「主体的に」学び成長する機会を大学につくることができるか？

産学協同就業力育成シンポジウム2013



主体性が学生を変える、 学生が社会を変える

～広がる 学生の本気を引き出すFuture Skills Projectの挑戦～

日時：2013年11月28日（木）14:00～17:30

場所：明治大学

アカデミーコモン内アカデミーホール（東京都千代田区神田駿河台1-1）

定員：600名

申込：http://www.benesse.co.jp/univ/event2013/

主催：Future Skills Project研究会



Future Skills Projectとは

「社会で活躍できる人材をどのように育成すべきか」をテーマに、2010年7月から議論をスタート。従来の個別企業・大学の連携とは異なる、複数企業・大学だからこそ実現しうる産学協同の学びの可能性を追求している。

研究会座長：日本学術振興会理事長・慶應義塾学術顧問 安西祐一郎

参加企業：アステラス製薬株式会社／サントリーホールディングス株式会社

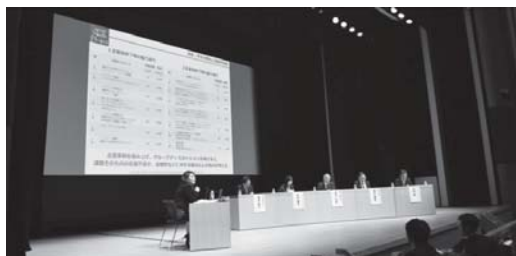
株式会社資生堂／日本オラクル株式会社／野村證券株式会社

参加大学：青山学院大学／上智大学／東京理科大学／明治大学／立教大学

事務局：株式会社ベネッセコーポレーション（03-5320-1301※土日祝を除く9:30～17:30）

Copyright ©2013 Future Skills Project. All rights reserved. 無断転載を禁じます。

57



第1回シンポジウム（2011年11月10日）にて

TBSニューズバード2012年9月13日放送の放送後記より

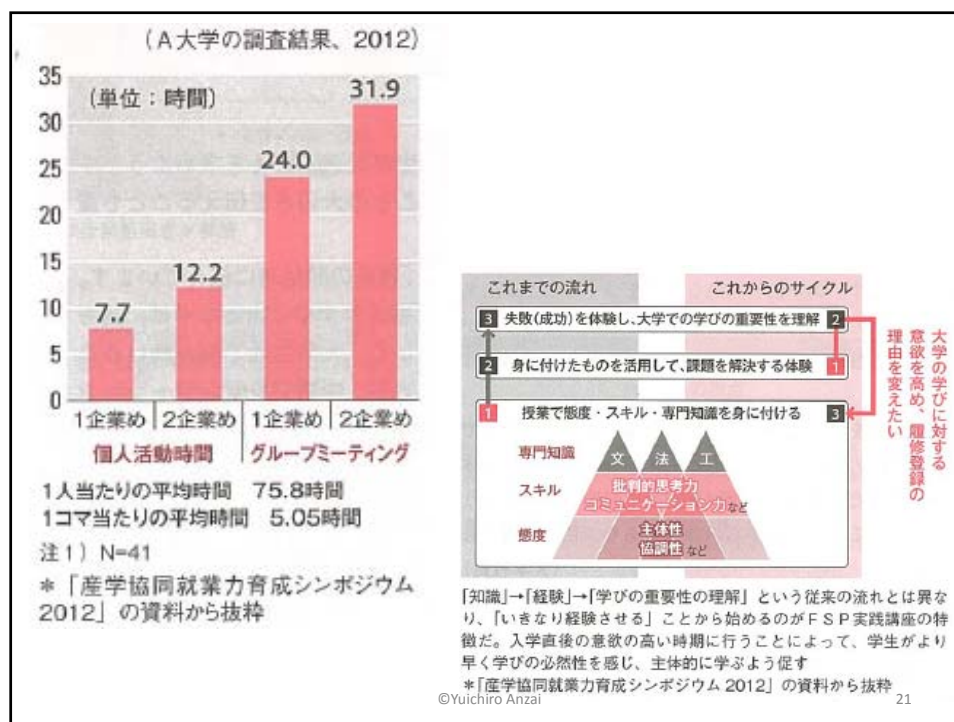
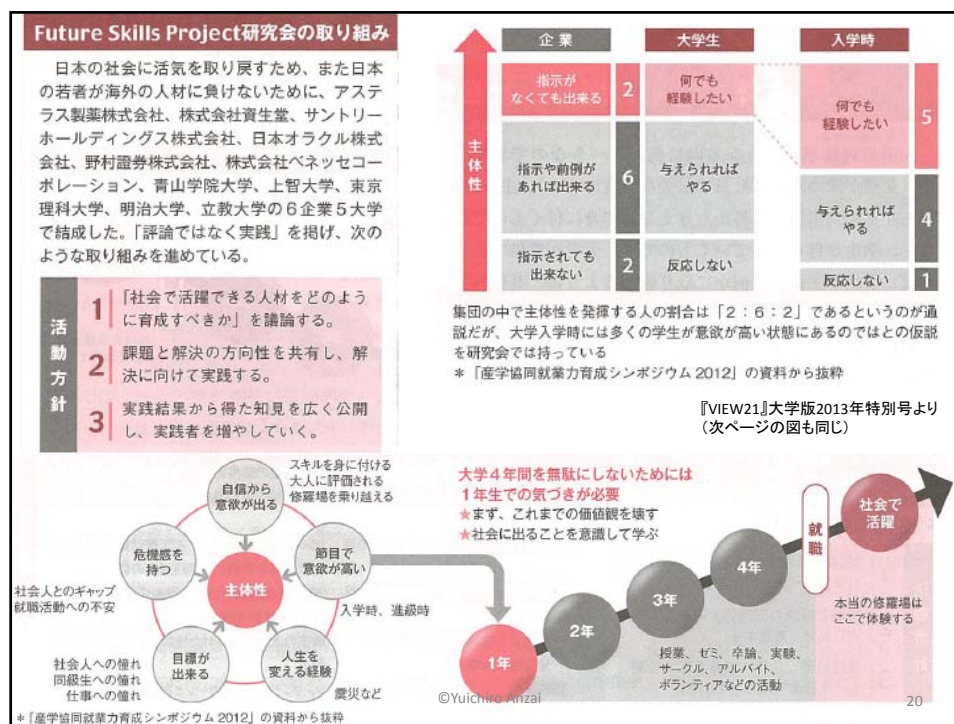
・【放送後記】

今、大学教育の在り方が変わってきています。大学生活と言うと、一般的には進級するために単位を取り、サークル活動などに精を出す学生が多いかもしれませんが、これでは何の為の大学なのかわからなくなってしまう。そこで、社会へ出るために実践的な学びを提供しようという試みが、今回ご紹介した教育プロジェクトです。就職を意識して大学3、4年生から動き出すのではなく、自分が本来、どのような能力を身に着けるべきなのか、入学して間もない大学1、2年生のうちから考えることで、その後の学生生活は非常に有意義なものになると思います。授業をただ受けるのではなく自ら学び取ることで人としても成長することができるのではないのでしょうか。私もこのようなプロジェクトがもっと早くあったならば、是非参加してみたいと感じました。（松澤千晶）

©Yuichiro Anzai

<http://www.tbs.co.jp/newsbird/lineup/viewpoint/201209.html>

20



FSP研究会4年間の実践によって「発見」されたこと

1. 学習者にとって何よりも大事な「**学びの原動力**」は「**主体性**」である。「主体性」を身につけてはじめて、自分で学ぼうとする意欲、学びの目標、学ぶ方法を自分で掴んでいくことができる。その体験と自信が「将来にわたって学ぶ力」と「社会で活躍するための力」を産み出していく。
2. 異質の経験や情報を持つ**初対面の人間**（FSP活動の場合は産業界の方々）から提起された「**（真に）答えのない問題**」に対して、その人々とコミュニケーションを取りながら、**意思疎通のなかった人たち**（FSPでは初対面の学生同士）のチームワークによって何とかして「**答えを見出す**」、そういう**トレーニングの場に長期間**さらされることが、「主体性」を身につけるために大きく役立つ。
3. 大学生が「主体性」を身につけるには、学生生活の後がなくなった3年生や4年生のような高学年よりも低学年の時期のほうが適切であり、とくに**1年生の春学期が最適**である。
4. 「（社会においても、どこにおいても）**答えのない（講師も答えを持たない）問題に答えを見出す**」**トレーニングを繰り返す**ことが、「主体性」を身につける源泉になる。

5. 1学期（半年15週）の間に**2つのセッション（各7週）**を設け、各セッションで**別々の企業が授業に関わる**ことで、学生が「主体性」を身につけることに再チャレンジできる大きな機会が得られる。
6. **友達同士でない学生がチームを組んで**「**答えのない問題に答えを見出す**」目標の達成に挑戦することと、1学期に**2つのセッションで組み替えること**を「**組み合わせること**」が、「主体性」の涵養に大きく役立つ。
7. 1学期の2つのセッションごとに**中間プレゼン、最終プレゼン**を行い、**ずっとつきあってきた企業人がストレートに発言**するとともに、「**振り返り**」の時間を設けることが、「主体性」の涵養に大きく役立つ。
8. 単位を取ることが学生にとっての現実の問題だから、「**単位**」を**取れる授業**として実践することが望ましい。（単なる「企業からの出前講座」や「オムニバス授業」では「主体性」は身につけにくい。）
9. 学生が自分のステップを自分で振り返ることのできる「**ノート**」、講師の側の「**指導マニュアル**」を整備することによって、授業のレベル、また学生同士や学生と講師の間のコミュニケーションの質を維持し、向上させることができる。

10. 講師の側が「**教え過ぎない**」こと、「**我慢する**」ことが、「主体性」の涵養にとってきわめて重要である。
11. 規模の大小、学力の高低、地域・立地の違い、文系理系の違いなどを問わず、**どんな大学でも、またどんな分野でも、**産業界との連携のしかたなどを工夫すればFSPの授業実践によって「主体性」涵養の成果をあげることが可能である。
12. 学生が「主体性」を身につけることのできる学びの環境を創るには、**信頼関係にある異質の人々のチームによる実践**が大切である。また、実践を通じた発見をさらに新しい実践につなげる、**チームによる実行力**が必要である。
13. 上に述べた実行力を最大限に発揮するには、**関係者**（FSP活動の場合はとくに産学の研究会メンバーと事務局）**同士の緊密な信頼関係、使命や目標の共有、風通しの良いコミュニケーション、チームワークの良さ**が必須である。

実践（その2） ～学部高学年・大学院生レベルで 「主体性」を身につける授業～

新しい社会の人間科学 ーネットワーク社会のシステムデザイナーー

SFC2013年度秋学期授業 第1回
2013.9.26

安西祐一郎（日本学術振興会）

なぜこの授業を開講するのか？

従来からSFCでは、ネットワーク社会、政策と社会、デザインと社会、情報技術などに関連した授業がたくさん行われています。

また、人間の認知、言語、心理などに関する授業も多数行われています。

この授業では、とくに「**科学的方法による社会システムのデザイン**」のスキルを身につけることを目標にし、**認知科学の成果と方法論に基づくシステムデザイン**について、例として**人材育成政策と研究開発政策**を取り上げながら解説します。

社会システムのデザインに関わる政策の立案は今の日本が直面している大きな課題ですが、**科学的な方法によってシステムデザインや政策立案ができる人材**はきわめて少なく、その育成が急務となっています。

この授業の内容はこうした現実を踏まえたものであり、履修者には真剣に授業の内容と向き合い、**科学的方法によるシステムデザインや政策立案のスキル**を身につけることを求めます。

©Yuichiro Anzai

27

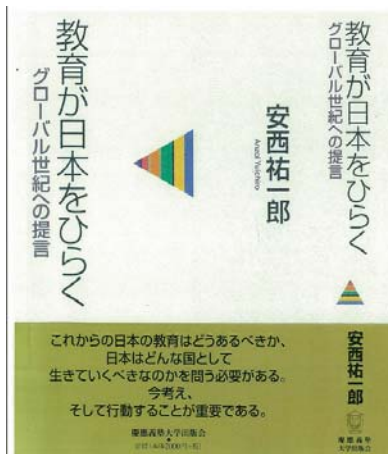
今学期が終わるまでに向上してほしいスキル

- **一定の期間内に他人を説得できる政策案を立案するスキル** (いろいろな案のなかで自分の提案が最も良い、ということを合理的に説明できる)
- **合理的に思考するスキル** (目標を持っている、その目標を達成するために(局所的に)最良の判断をしている、必要なデータを必要な表現で用いる、証拠のしっかりしたデータを用いる、論理的である、公序良俗に反しない)
- **明快な正しい文章を書くスキル** (伝えたいことが読み手にすぐ分かる、日本語(あるいは他の言語)として正しい、論理的に正しい、文脈ときちんと関係している、読みのリズムが適切である、自分で考えた表現である、他人からの受け売り・切り貼り・コピーペーストでない)
- **思考内容を明快に正しく話すスキル** (他人の前で原稿やメモを読み上げない、受け売りのことばを使わない)
- ✓ 本授業では上のようなスキルが身についたかどうかを評価します。政策の例として授業で挙げる分野自体は例題にすぎません。
- ✓ 上のようなスキルを真に身につけるには、「経験」および「知識」の両方が大切になります。このため、授業だけでは限界がありますから、アサインメントおよび期末レポートは必ず提出してください。

©Yuichiro Anzai

28

これからの教育

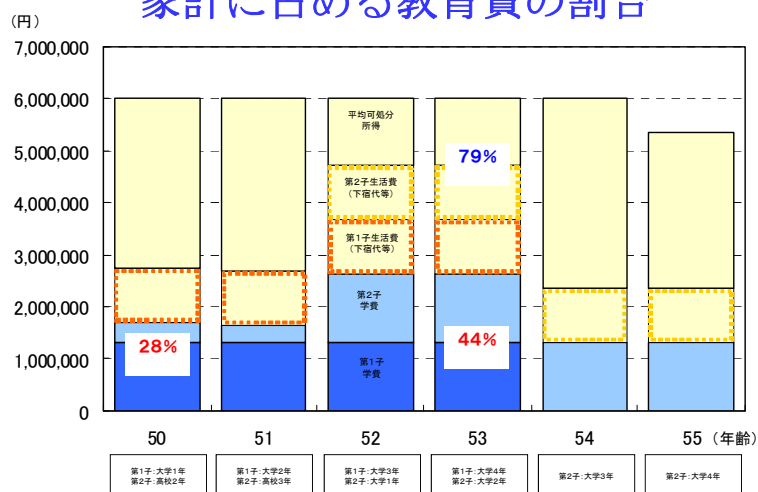


人はだれでも、多くの能力を秘めてこの世に生まれてくる。その能力を自分で発見し、磨き、他者に貢献することを通して、よろこびと毎日の糧を得る。この世に生まれてくる人間一人ひとりがこうした人生を送れるようにすること、それがこれからの教育の役割である。『教育が日本をひらく』, 2008)

©Yuichiro Anzai

23

家計に占める教育費の割合



注1) 教育費負担: 幼稚園は私立の学習費総額、小・中・高は公立の学習費総額(学校外活動費含む)、大学は私立大学・民間部の居住形態に拠らない平均の学費を使用。
また、渡線部は下宿・アパート等の居住形態の場合の生活費を使用。
注2) グラフ中の赤字は可処分所得に占める大学の学費の割合を示す。青字は大学の学費に生活費(居住形態を下宿等に仮定)を加えた場合の割合を示す。
注3) 可処分所得: 2人以上の世帯のうちの勤労世帯。世帯主の年齢級別1世帯当たり1ヶ月間の可処分所得を年換算したもの。55歳の数値は55～59歳の平均を使用。
注4) 本データはひとつの試算であり、貯蓄や教育ローン等の活用は考慮していない。
(出典) 文部科学省「平成22年度子どもの学習費調査」(2012年)、
独立行政法人日本学生支援機構「平成22年度学生生活調査報告」(2012年)、
総務省統計局「平成22年度家計調査年報」(2011年)

©Yuichiro Anzai

30

学びのイノベーション

文部科学省資料より

学びのイノベーション推進協議会

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/06/1335826.htm

著作権の都合により、Web画像は掲載しておりません。

創造的復興教育協会

<http://www.crea.or.jp/>

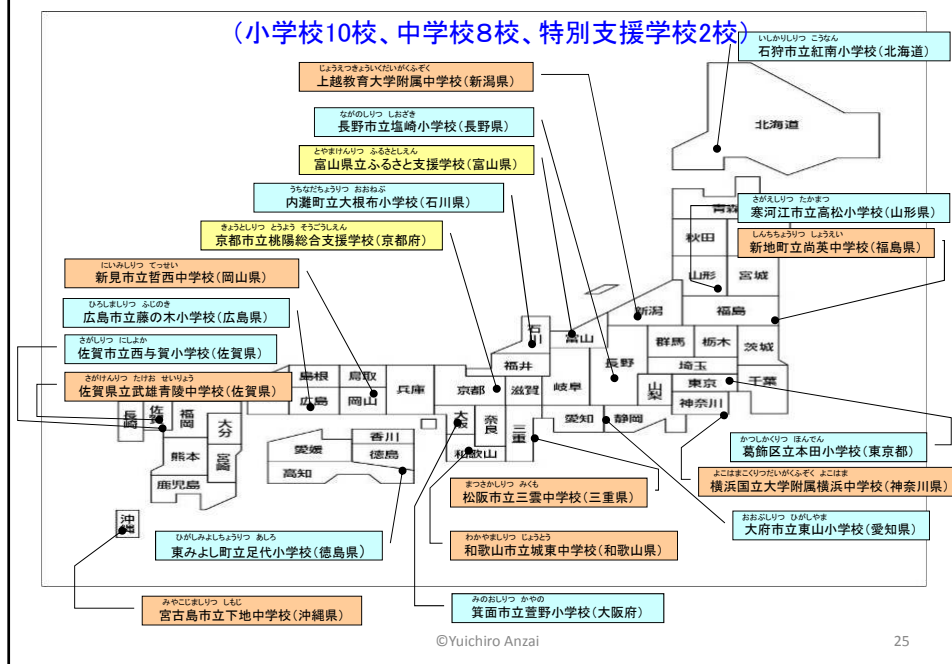
著作権の都合により、Web画像は掲載しておりません。

©Yuichiro Anzai

24

学びのイノベーション事業実証校

(小学校10校、中学校8校、特別支援学校2校)



©Yuichiro Anzai

25

大学の転換

1. 教員自身が、国際社会・政治・経済・医療・科学技術イノベーションなどの長期的な変化を十分に理解する。
2. 教員自身が、学生の人生を決めるのは自分の教育方法だと考え、基礎知識の学修、および答えのない問題に答えを見出す主体的学修の両立を目標にする。
3. 情報公開、科目ナンバリングなどを重視し、世界から可視化できるカリキュラム体系にする。
4. 基礎知識、および答えのない問題に主体的に答えを見出す力の両方が一定の目標に達しているかを入学と卒業の目安とする。
5. 多様性と開放性を考慮した大学院教育への転換を図る。
6. 教員自身が、研究者として世界のフロンティアで研究する。
7. 上記の事柄を念頭に置いて教員の評価を行う。
8. 同様の目標を持つ他国の大学をベンチマークし、教育方法と内容、研究テーマの分布と研究レベル、学生交流・社会との連携・情報公開のパフォーマンスなどを比較評価する。
9. 教育・研究の質的転換と経営力強化の両面を促進するマネジメントに徹する。
10. ジェネリックスキルの獲得を通じた基礎的な専門知識の獲得を推進する教育システムの構築を図る。

©Yuichiro Anzai

28

大学の情報公開標準化の例：

College Scorecard (米国)

<http://www.whitehouse.gov/issues/education/higher-education/college-score-card>

College Portrait (米国)

<http://www.collegeportraits.org/>

- 著作権の都合により、Web画像は掲載しておりません。

コメントの例： R. Perez-Pena, Scorecard for Colleges Needs Work, Experts Say, The New York Times, Feb.13, 2013.

http://www.nytimes.com/2013/02/14/education/obamas-college-scorecard-needs-works-experts-say.html?_r=0

©Yuichiro Anzai

29

大学の情報公開標準化の例: Unistats (英国)

<http://unistats.direct.gov.uk/>

Unistatsの利用データ例

<http://registrarism.wordpress.com/tag/unistats/>
(posted May 15, 2013)

著作権の都合により、
Web画像は掲載しておりません。

Since its launch in September 2012, the Unistats web-site has received over 3.8 million page views and over 175,000 unique visitors – an average of 984 new visitors per day. The site is used extensively by prospective higher education students, their parents, careers advisers, teachers and higher education staff. The research, commissioned by the Higher Education Funding Councils, looks at the site's position in the market and how it is perceived and used, as well as issues such as navigation, search, filter and comparison functions, and data presentation. A separate report by the Higher Education Statistics Agency (HESA) focuses on the experiences and views of higher education institutions. Key findings include:

The average length of visit to the site is over eight minutes (a long time compared with use of other web-sites). Many users regarded the independent and authoritative nature of the site as one of its key strengths. Prospective students, current students and parents were more positive about the site than careers advisers, teachers and higher education staff, and more likely to describe the site as 'useful' and 'easy to get around'.

批判の例: At the Heart of the Higher Education Debate, The Times Higher Education, 2012.11.15

©Yuichiro Anzai
<http://www.timeshighereducation.co.uk/421816.article>

30

Massive Open Online Courses: MOOCs

1. 学びたい人は誰でも、いつでもどこでも自分のペースで学ぶことができる。
2. 学んでいる人は誰でも、学びの内容を共有し、議論することができる。
3. 知識を広めたい人は誰でも、広める手立てを持つことができる。
4. 学習環境を「組み合わせる」多角的な環境で学ぶことができる。

Top 10 MOOC Sites by BDPA (Black Data Processing Associates)
Detroit Chapter July 2013

http://www.bdpa-detroit.org/portal/index.php?option=com_content&view=article&id=57:moocs-top-10-sites-for-free-education-with-elite-universities&catid=29:education&Itemid=20

- Udemy Free Courses (Online courses, anytime, anywhere)
- iTunesU Free Courses
- Stanford Free Courses (Coursera: Take the world's best courses, online, for free.)
- UC Berkeley Free Courses
- MIT Free Courses (edX with Harvard: Take great courses from the world's best universities.)
- Duke Free Courses
- Harvard Free Courses
- UCLA Free Courses
- Yale Free Courses
- Carnegie Mellon Free Courses

-
- Udacity (Learn, Think, Do.)
 - Futurelearn (Learning for life)
 - Khan Academy (A free world-class education for anyone anywhere)

©Yuichiro Anzai

31

MOOCsの先に何があり得るか？

From P.Brown, H.Lauder and D.Ashton, *The Global Auction: The Broken Promises of Education, Jobs, and Incomes*, Oxford U. Press, 2012.

17年後の世界？

著作権の都合により、
Web画像は掲載しておりません。

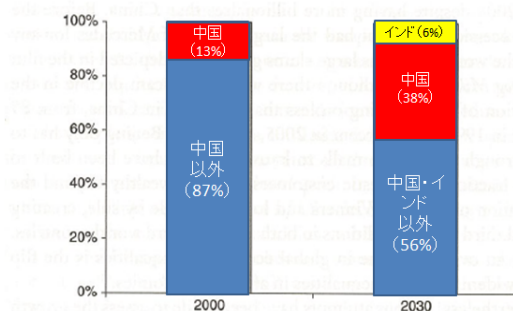


FIGURE 8.4 Chinese and Indians in the global middle class (percentage).
Source: Maurizio Bussolo, Rafael E. De Hoyos, Denis Medvedev, and Dominique van der Mensbrugghe, *Global Growth and Distribution: Are China and India Reshaping the World?* The World Bank Development Economics Prospects Group Policy Research Working Paper 4392 (November 2007), 21.

©Yuichiro Anzai

32